

平成 29 年度第 7 回伊勢市総合計画審議会 議事要録

◆日時 平成 30 年 2 月 1 日（金）19：00～21：10

◆会場 伊勢市生涯学習センター いせトピア 3 階研修室

◆出席委員

山本 誠委員、美濃 松謙委員、竜田 和代委員、池田ミチ子委員、酒徳 雅明委員、
岩崎 良文委員、西村 純一委員、西村 幸泰委員、浅野 聡委員、三村 和也委員、
新田 均委員、重松 玲委員

◆欠席委員

森 裕美委員、永井 正高委員、山本 康史委員、

◆出席職員

情報戦略局【情報戦略局長、情報戦略局参事（兼企画調整課長）、情報戦略局参事（兼
情報調査室長）、財政課長、広報広聴課長、企画調整課課長補佐、
企画調整課主査 2 名】

環境生活部【環境生活部長、環境生活部参事、環境課長、清掃課ごみゼロ推進係長】

教育委員会【教育事務部長】

健康福祉部【健康福祉部長】

危機管理部【危機管理部長、危機管理課長】

消防本部【消防次長、総務課長】

産業観光部【産業観光部長、商工労政課長、同課副参事、農林水産課長、
農林水産課副参事、観光振興課長】

都市整備部【都市整備部長、都市整備部次長、都市整備部参事、都市計画課長、
交通政策課長、基盤整備課長、維持課長、維持課副参事、用地課長、
建築住宅課副参事】

上下水道部【上下水道部長、上下水道部次長】

総務部【総務部長、総務部参事】

◆内容

（1）前回の振り返り

（2）第 3 次総合計画・前期基本計画（案）について

◇会議録（要録）

以下の要録は、事務局により要旨を編集したものです。微妙なニュアンス等が表現されて
おりませんので、ご了承ください。

は高く設定しているのに、節の目指す4年後の数値指標や重点課題の成果指標は、達成できそうな低いものになっている。かけた時間・量ではなく、質が測れる指標の方が良い。

- ・【第3節】環境教育であれば、その成果として、七夕大そうじなど環境活動に人を巻き込めたとか、出たごみがどれだけ減ったかなど指標に変えてはどうか。
⇒指標については、どういうものが適当か再度検討したい。

第6章

- ・【第1節】農産物の生産量や漁獲量の規模拡大や維持は見込めるが、高齢化により農業、漁業就業者数の減少率0を達成するのはなかなか厳しい。伊勢市では、イチゴ、菊、バラ、青ネギ、蓮台寺柿、横輪芋など多彩な農業が営まれているが、伊勢市の農家で多いのは稲作で、高齢化により危機的な状況である。林業や漁業についても同様である。重点課題にも挙がっているが、観光地としての「伊勢」は有名であるが、「伊勢」が農林業と結びつかないのが現状であり、所得を上げるためにも、地元産物を活かしたブランド化が必要である。

稲作についても重点課題だと思うが、土地の集積が必要であるため、地域の実情にも沿った対応をすすめてほしい。

農林水産業の関連計画として「鳥獣被害防止計画」や「食育推進計画」を挙げているが、それらも課題の項目として別途追加すべきである。

⇒鳥獣被害については、課題の「農業生産基盤の整備」の中の1つとして、食育推進については、農林水産課と健康福祉部、教育委員会が連携して取り組んでおり、農林水産課としては子どもたちの農業体験や地産地消の認定店事業、学校教育の地場産品の推進などに取り組んでいるが、課題の「特色ある安全・安心な農産物づくりの推進」の中の1つとして、取り組んでいきたい。

- ・【第2節】指標の算出方法の表記に「中小企業相談所」とあるが、「伊勢商工会議所」の一組織であるので、その頭に「伊勢商工会議所」をつけるべき。また、現況の記載の中で「本市の中小企業においては、低迷していた経済状況からは脱したものの、依然として厳しい状況が続いています」とあるが、矛盾するような表記なので「本市の中小企業においては、依然として厳しい状況が続いています」が良い。
⇒指摘どおり修正する。

- ・【第2節】節の目指す4年後の数値指標で「伊勢市の商業の活気について」の市民実感を挙げているが、商工業の節の中で商業だけの指標で良いのか。
⇒4年後の数値指標については、市民アンケートで暦年調査をしている項目を採用している。伊勢市では工業の事業所数は製造業が全体の8.3%であるのに比べ、商業の割合は、卸売・小売・飲食店で40.5%と差があることから、商業のみでも良いと考え指標を置いた。

- ・【第3節】序章において、まちづくりの主要課題の「自然災害への備え」における関連施策に「観光」があるのに、その関連の記載がない。現況の中や観光が挙げる課題の1つ「63D 満足度を高めるための受入環境・受入基盤整備」の中で捉えていくべきである。 ⇒表記方法を考えたい。
- ・重点課題の成果指標に「観光情報公式ホームページセッション数」とあるが、「セッション数」という単位はなじみがないので注釈が必要である。
⇒空きスペースで解説を加えたい。
- ・課題の1つ「63C 様々な人達に届く情報発信」の解決の方向性には、現在はインスタグラム、SNS などを使ったほうが効果的な情報発信ができるので、「時代に沿った方法で」という一文を加えたほうが良い。 ⇒ 修正する。
- ・【第4節】節の取組方針に「働きたい人が働ける環境づくりを進めます」とあるが、継続的な切れ目の無い環境になるように、「働きたい人が働き続けることができる環境づくりを進めます」としたらどうか。
有効求人倍率が高いものの、実際人手不足との声もあり、重点課題における取組として「セミナーや就職説明会など就職に必要な情報・ノウハウを提供する機会や資格の取得を支援します」とあるが、その割には重点課題の成果指標の数値が低いと感じる。少しでも高くなればと思う。
⇒19~39歳の若者に対し就労支援をしているが、県下と比較し10%程度は高いので決して低くない。
- ・【第3節】課題の1つ「様々な人達に届く情報発信」とあるが、ここでいう「様々な人」というのは全ての人を指すのか。
⇒例えば一口に「外国人」といっても様々な国や地域があり、現在は欧米を中心にターゲットとしている。また、国内の方でも、大きな柱としてバリアフリー観光、スポーツ誘客を挙げている。「様々な」には色々な分野も含んでいる。
- ・課題への取組の方向性として「地域を愛し高い市民力を持つ人材、次世代の担い手の育成を推進します」と挙げているが、誰が、どのようにして育てていくのか。教育との関連は無いのか。子どもうちから育てていくというのが観光客を受け入れていくまちづくりではないのか。子ども達の何%に参加してもらいたいなど目標に入れてもらうとわかりやすいと思う。
⇒一昨年度から観光担当課では、小学5、6年生を対象に「伊勢っ子育て事業」に取り組んでいる。伊勢のことを自ら学んでもらい、伊勢市駅前等で観光客に湯茶の振る舞いや案内などを事業として取り組んでいる。人数はそれほど多くないが、観光の視点で子どもたちに地域のことを知ってもらい、地域を好きになってもらいたいと考えており、もう少し広げていきたい。
- ・「地域を愛し高い市民力を持つ人材、次世代の担い手の育成を推進します」の取組については、まちづくりの主要課題の「地域のつながりの再生」の関連施策として入れていただきたい。

- ・【第4節】雇用における人手不足を感じているが、地元高校生の8割が県外の大学へ進学し、県内の大学卒業予定者のうち約5割が県外に就職していることに対する方向性を具体的に示してほしい。
⇒大学進学者の一部しか地元で就職されないことから、県外への進学者には家族を通じ、地元企業情報を発信し、そして地元に残る大学生、地元へ進学してくれた学生には、産業支援センターの地元企業の見学会といった取組を拡充するなど、様々な取組をすすめていきたい。
- ・そのような取組に対し、成果指標は置けないか。どれだけの取組が行われているのかわからない。⇒検討させてもらう。
- ・【第4節】県内に残った学生と県外に出た学生が戻ってきた時の扱いが平等であれば、県内に学生は残りにくい。ここに残って4年間地元に関わったことによって、地元を何とかする力がつくとか、そういう人を優先的に育てようとするとか、そういうことがあって初めて地元子どもたちが残る。そうでなければ、都会の魅力に引き寄せられて、県外へ出て行く。地元に残させる工夫を地域が考えていく必要がある。そのような取組をするのであれば、まちづくりの主要課題の「地域のつながりの再生」の関連施策に「第2節 商工業」が入ってもおかしくない。
- ・【第4節】いせ若者就業サポートステーションの就職率が他の県内の町に比べ高いと説明があったが、どれだけ継続して就労しているか把握しているのか。そういった数値を挙げる考えは無いか。
⇒継続して就労していない割合も高いと聞く。調査をやっていく必要があるが、全て追跡調査ができていないので、数値は把握していない。
- ・【第3節】観光の目指す4年後の数値指標として「神宮参拝者数」を挙げているが、課題の「63A」は密接に関係してくると思う。残りの5つの課題の解決がどれだけ影響するのかわからないので、もう少し内容を入れても良い。
- ・【全般】重点課題の成果指標が、市役所がどれだけ努力したかを測る指標になっている。「第6章第1節」の農林水産業の指標は、「ブランド化に向けた取組の支援数」とあるが、どれだけ支援をしたかではなく、どれだけブランド化をしたかの成果を測るものでなくてはならない。そうした視点を入れてもらいたい。

第7章

- ・【第2節】重点課題の成果指標の市内の路線バス、おかげバスの利用者を5%増やすとあるが、人口減少が進む中で、5%の根拠は何か。
⇒「節の目指す4年後の数値指標」で路線バス施策の市民満足度を5%上げる目標を掲げているのに合わせて、バス利用者も同様に5%増やしたい。また、おかげバス運行10年が経過し、ニーズの調査もしながら、運行計画を見直していきたい。

- ・【第4節】空家等の除却・管理済件数が重点課題の成果指標に挙がっているが、現状を詳しく教えてほしい。

⇒平成27年度に空家の実態調査をした。9,000件調査し、危険度の高いものが82件、その他が2,809件、計2,891件の件数を把握している。この数字を基に改善に向けた取組を行っている。重点課題の成果指標は、更地になった件数、草木の繁茂、瓦の崩落など、周辺に悪影響を及ぼす空家の改善を依頼し解消を確認した件数です。
- ・【第4節】地籍調査は重要で、こつこつと根気強く進めることで、災害に対する備えにもなる。そのなかでも津波浸水予測区域をスピードアップして取り組んでもらいたい。括弧書きでも、津波浸水予測区域の進捗率の目標も挙げた方がよい

⇒現在、地籍調査については国主体で進めているが、国全体では52%進み、平成31年度までに57%を目標にしている。三重県を見ると9%で全国の下から2番目。伊勢は県下の真ん中ぐらい。全体では8.9%と低い、沿岸部では、23%進み、市街地の人口集中地域だけで19%進んでいる。指標の見せ方は工夫したい。
- ・【第5節】立地適正化計画も踏まえて、いよいよコンパクトなまちづくりに向けて市街地全体を整備していく必要がある、基本計画の記載内容の方向性は良い。

最近、伊勢市駅前にビジネスホテルの立地が続いているが、今後も鳥羽や志摩ではなく、伊勢の安く泊まれるホテル立地のニーズは続くと思う。ホテル等も景観と調和するまちづくりを進める必要がある、このチャンスを逃せば、50年ぐらい山田地区の美しいまちづくりのチャンスを逸するのではないか。立地適正化計画とあわせ、景観計画も見直し、都市機能誘導区域を景観重点地区に指定し、美しいまちをつくっていくというような方向性を含めてほしい。
- ・【第2節】重点課題の成果指標のバスの利用者を5%増と設定していることについて、伊勢市に限らず県内、全国的な傾向であるが、増える見込みは無く現実的ではない。また節の目指す「地域の路線バスの充実とバス路線のない地域の移動手段の確保」の満足度を上げることについては、何が不満足かの原因をはっきりとさせ、取り組んでいかないといけない。路線バス施策等の満足度を上げるための取組の成果指標に「利用者数を伸ばす」といった数値を挙げるのは適当でないのではないか。例えば「低床バスの普及率」を上げるなどの方が、満足度向上に繋がるのではないか。

⇒再度調整したい。
- ・【第2節】おかげバスの利用者数を指標に置くが、今走っているバスの乗車率はどれくらいか。人数で比較するのではなく、乗車率で比較するのも大事である。

⇒ルートが9本あり、1日あたりの利用者数は16人から43人である。
- ・【第3節】水位計の設置について、どの川に設置の予定か。水位計の設置があれば、台風21号のような被害が解消されると考えていいのか。

⇒県、国、市が一緒になって普及に向けて動いている。まず菱川、矢田川、清川、椋尻川など先日の台風により被害のあったところを中心に考えている。

今まで水位計が非常に高額であったが、昨今の集中豪雨の多発を受け、国が中心になって安価で設置しやすい水位計が開発され、その動きに沿って市でも積極的に設置を進め、市民に安全に避難してもらえような情報発信に取り組みたい。

- ・【第3節】課題の1つとして「73B 流下能力が不足している河川・排水路の浚渫」が挙げられているが、例えば外城田川を見ても、浚渫された箇所もあれば、未着手の箇所がある。未着手箇所については、市からも県にお願いしつつ、また市管理の小さな川も定期的に取り組んでもらいたい。
- ・【第4節】伊勢市には壊れそうな空家がたくさんある。無くなる理由は、更地にすることにより税金が6倍にも増になる点にあると思う。なんとか改善に向けた行動を起こしてほしい。

- ・【第4節】節の目指す4年後の数値指標に「これからも住み続けたいと感じる割合」を挙げているが、数値の内容を教えてください。
⇒「このまま永住したい」と回答した割合が55%で、現状地にはその数値のみを掲載した。他にも肯定的な回答として「当分住み続けたい」と回答した割合は22%、「一度は市外に転出したいが、いずれ伊勢市に戻ってきて住み続けたい」と回答した割合が3%、「いずれ市外に移転したい」と回答した割合は6%、「わからない・特に考えていない」と回答した割合は11%。表現の仕方を再考する。
- ・【第4節】「住み続けたい」という要素は、必ずしも住環境だけに限らない。仕事との関わり、勉強との関わり、田舎に住む親の近くに住みたいとか様々な要素が合わさったものではないか。市があらゆる分野の取組を横断的に複合化して進め、初めて住み続けたいという数値が上がると思う。

- ・【第5節】「重点課題の成果指標」の商店街新規店舗数について、本当に中心市街地を活性化したいと考えるうえで、新規店舗数を増やしたいという発想は、やっつけ感があり、もっと相応しい指標が無いか再考願いたい。

- ・【第2節】高齢化になって免許証を返納する人が増えていると思うが、それに対応するような言葉が全然出てこない。今後の路線バス等の取組の方向性を考えてほしい。
⇒高齢化により免許証の返納が増えているのは全国的な課題であり、再考したい。

○次回について

- ・次回（第8回）審議会（2月13日）には基本計画（案）の修正案を審議していただく予定です。審議ができなかった「第8章 市役所運営」の箇所については、2月5日（月）までに意見があれば事務局までお願いしたい。